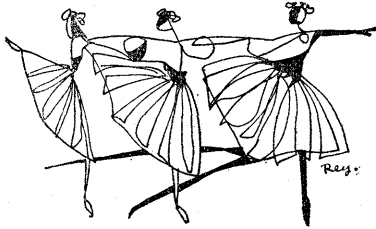


# 都 心 地 域 の 保 育



操  
眞

林  
守

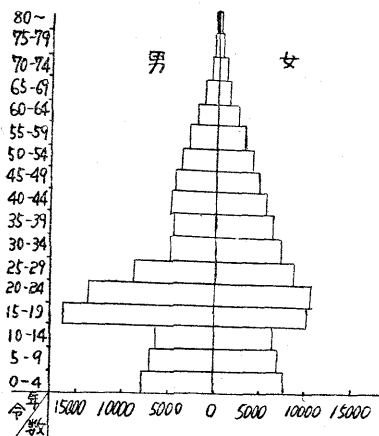
小  
津

「日本橋に三代住むと気狂になる」と巷間に云われているが、昔から都会の真中は人間の往来も繁しく、所謂、生馬の目を抜くような忙しい生活が展開されていた。況や、二十世紀後半の現代において、商業の中心である東京の中心の繁華街の生活の忙しさは、数十年前の比ではない。ぎっしりと立ち並ぶきらびやかな商店街、その間を幾重にも列をなして走る車の波、人の波、昼間は全国から集まる買物の人の群、朝晩は東京中から集まった事務員、店員達の通勤の人々の群が道路を埋めつくす。夕方から夜にかけては露路の奥まで入りこんだ料理店、カフェー、酒場などに各種の人々がざわめき過ぐす。こうして

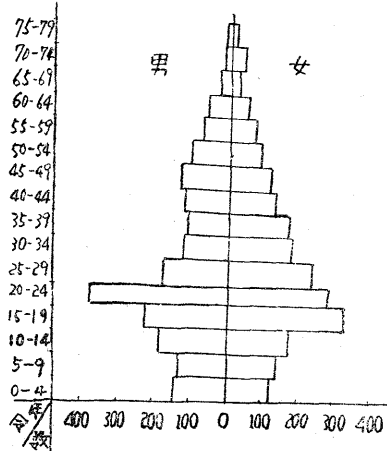
夜が更ければ都会の真中の人口は、屋間の十分の一位に減ってしまい、ビルに挟まれた市は森閑としてしまう。これが日本の首都、東京の中央、日本橋である。

大人の経済、金融活動の中心として目まぐるしく廻転をつづけている此の一翻にも、その中で生活する子供達がある。たまにデパートに買物にだけゆく人々は、そこにも子供の生活があるなどということ想像もしないだろう。だが、天にまでそびえ立つ大きなビルディングの裏側にまわって露路を覗いてみれば、子供達に共通な、あの輝やいた眼が好奇の眼を光らせて遊んでいる姿を見つめる。それから又、デパートの買物の人々の中をかきわけて、普段着のまま売場の間をかけまわっている子供の姿に気が付いた人もあるだろう。しかし大部分の大人達は、少くとも此の都会の中心に出てくる時だけは、自分達の買物のこと、仕事のこと以外のことを頭に思い浮べたことはないだろう。此の世界では大人達は凡そ利己的である。容赦なく群をつくって突走る自動車の群と同様に、人々はめいめい自分達の思いに耽り、身なりをつくらって

第1表 年齢別性別人口 (中央区)



第2表 年齢別性別人口 (学区区域)



人の波に押流されて歩く。そして此の土地に住む人々のあること、子供達の生活のあることを想像もしない。

此処に住む子供達の生活は、自然、住宅地の子供と比べると、異った様子を呈している。全般的にみて、子供に落着きがない、一つの仕事に落着いて取組む気魄と忍耐力が欠けている。独創性がない、現実的である、等の特性は、此処の子供達と接すると、誰もが気付く事柄である。此の地区の中にある幼稚園の先生達が、毎日の保育の中で苦勞する事

柄も、子供のこういう特性に關してである。教育は地域の実態の上に立たなければならぬと云われるが、繁華な街の中の幼稚園はどのような教育的考慮を必要とするであろうか。これが所謂都心、日本橋の真中に位する城東幼稚園の持つ問題であり、近代的都市生活の持つ問題の典型である。此の問題をもう少し明らかにするために、私共は先づ此の地域の社会的地盤の実態を調べ、その中で子供がどのような生活をしているかを明らかにして、此の地域の子供の特性の由つて来る所を

見て、保育上の問題を解決する一つの手がかりとしようとしたのである。

### 一、社会的実態

此の地域は前述のように、大きなビルディングや商店が林立しており、人と車の交通が繁しい。屋間は買物の人、事務員、店員で人口が多いが、実際に此の地域に居住する人の数は比較的少なく、而も居住者は次第に減少の傾向にある。これは同じ東京でも中野、杉並等の郊外の住宅地とは対照的な事実であ

る。又此の地区の人口の年令的人口構成を見ると極めて特徴的な事柄は、十五才から二十才の間の人口、而も男の数が著しく多く、その他の年令層が少ない。(第一表及び第二表参照) 中央区全体についても、又、特に城東幼稚園の学区域である日本橋地区についても同様である。これは事務所や商店の管理人として夜もビルディングの中に留まっている若い独身の男性が多いということ、又使用人として居住する少年の多いことを示すものである。

城東幼稚園の学区域は、日本橋通、江戸橋八重洲各一、二、三丁目から成り、此の範囲から通学する児童数は毎年減少の傾向にあり郊外住宅地域の学校とは此の点でも異つた様相を示している。(第三表) 現在、実際に此の区域内に居住する児童数は、学令児童約三百名、就学前乳幼児約三百名で、小学校入学児童の九五パーセントが幼稚園を経てゐる。

これらの子供を持つ親の職業を、城東幼稚園の父兄の職業別によって示すと第四表の通りであつて、飲食店経営に従事するものが多いが目立つ。此の表の会社員の中には、事

務所や商店の住込み管理人が多い。こういうことから、家庭の中にまで職業的制約が浸透せざるを得ない場合が多くなり、飲食店の場合には家の最も良い部分が客のために提供され、父親のみならず母親も仕事の中にまぎこ

まれる場合が多くなり夕方から夜にかけては子供の面倒もみてやれないという家も少なくない。

### 二、児童の生活

大人達の忙しく動きまわる中で、子供達は

その間を縫って遊んでいる。遊園地も公園も一つもない此の地域では学校と学校の運動場は子供達の唯一のオアシスである。学校と幼稚園では子供の生活に適したカリキュラムが組まれ、適切な指導が施されているが、一度び校門から外に出れば、そこは子供のために仕組まれた環境ではない。学校、幼稚園で過す時間は子供の生活の一部分に過ぎず、校門の外での子供の生活が学校の中に持ちこまれ、学校の苦勞もふえてくる。

此の地域には子供達の簡単に行ける範囲にデパートとSデパートの二つのデパートがある。Tデパートは子供等の遊び場の一つである。第五表は夏休みの一日に行つた調査であるが高校生までを含めると大体千三百名以上の子供が独りで、或いは友達とだけでデパートに出入している。小学校低学年及びそれ以下の子供だけ算しても百名以上である。デパートの中で何をして過

第3表 入学すべき児童数

年度	昭和				
	30	31	32	33	34
人数	76	65	42	41	46

23. 12. 1. 調

第4表 保護者の職業

	人数	百分氏%
会社員	21	22
商業	27	28
公吏	9	9
飲食業	14	15
工業	7	7
理髪業	3	3
遊戯場	3	3
医師	1	1
運送業	1	1
その他	7	7
無職	2	2
計	95	

年 令	入										出									
	幼稚園 以下	幼稚園	小学校 低学年	小学校 高学年	中学校	高等学校	小 計	幼稚園 以下	幼稚園	小学校 低学年	小学校 高学年	中学校	高等学校	小 計						
10時 ～ 11時	男 0 女 0	男 2 女 0	男 11 女 3	男 28 女 27	男 38 女 40	男 30 女 30	男 106 女 62	男 0 女 1	男 0 女 0	男 2 女 0	男 8 女 4	男 6 女 6	男 8 女 8	男 6 女 6						
11 ～ 12	男 1 女 2	男 1 女 2	男 13 女 4	男 27 女 7	男 26 女 32	男 40 女 40	男 154 女 122	男 0 女 0	男 1 女 1	男 2 女 1	男 20 女 8	男 26 女 28	男 27 女 16	男 12 女 7						
12 ～ 1	男 0 女 0	男 5 女 4	男 4 女 1	男 7 女 4	男 26 女 32	男 40 女 39	男 80 女 82	男 0 女 0	男 4 女 4	男 8 女 1	男 8 女 3	男 12 女 10	男 34 女 48	男 66 女 62						
1 ～ 2	男 3 女 2	男 1 女 3	男 17 女 11	男 17 女 11	男 38 女 45	男 48 女 50	男 124 女 122	男 0 女 0	男 1 女 3	男 3 女 4	男 24 女 18	男 36 女 28	男 51 女 27	男 115 女 86						
2 ～ 3	男 5 女 0	男 6 女 3	男 5 女 3	男 21 女 10	男 17 女 17	男 3 女 15	男 53 女 64	男 0 女 1	男 3 女 0	男 7 女 9	男 14 女 12	男 20 女 48	男 22 女 27	男 66 女 92						
3 ～ 4	男 1 女 1	男 3 女 3	男 4 女 3	男 17 女 17	男 41 女 34	男 40 女 52	男 106 女 97	男 1 女 0	男 4 女 2	男 12 女 5	男 28 女 16	男 47 女 50	男 37 女 34	男 129 女 107						
4 ～ 5	男 0 女 0	男 2 女 1	男 4 女 5	男 12 女 2	男 25 女 21	男 28 女 42	男 71 女 78	男 0 女 0	男 0 女 4	男 11 女 4	男 9 女 6	男 45 女 33	男 49 女 41	男 114 女 88						
5 ～ 5,30	男 0 女 5	男 0 女 5	男 0 女 2	男 2 女 4	男 7 女 5	男 14 女 30	男 23 女 41	男 0 女 1	男 1 女 2	男 7 女 2	男 19 女 8	男 31 女 23	男 24 女 55	男 82 女 91						
小 計	6	20	58	82	131	55	666	1	14	23	130	223	252	672						
計	11	86	90	186	476	586	1385	3	35	78	200	444	517	1277						
果 計	11	47	137	323	799	1385		3	38	116	316	760	1277							

註) 以上は子供高志のみの数である (男と全部が近所の子供)  
 尚、大人につれられて来た子供の総計は男 954、女1160である。入った子供と出た子供との数が食い違ふのは、地下入口を滞りためである。

しているかを見ると、第六表の如く、玩具売  
 場、屋上、書籍売場が大部分を占めている。  
 デパートの中には子供の目を惹くものが多く  
 あちらの売場からこちらの売場へと子供は渡  
 り鳥のように移り歩き、教時間を過してい

る。又或る子供達はエレベーターやエスカレ  
 ーターを何回となく昇ったり降りたりして遊  
 んでいる。恐らく此の地域の子供達にとつて  
 デパートは最も面白い遊び場であろう。

悪なものもなく、最も安全な遊び場なので、  
 家庭でもデパートに行つて遊ぶことを奨励す  
 る向きもある。しかし、あらゆる種類の品物  
 が無限に並んでいる中で、特に一つのを  
 詳細に観察するわけでもなく、目移りする刺

第6表 デパート内の子供の行動

方法：一人の子供について約30分間追いかけた記録

対象：49組の小学生及び幼児

男、41組（中1人だけのもの9、他は子供同志2人以上）

女、8組（中1人だけのもの2）

延人数 男90名 女17名 計107名

子供の遊び場となる売場（数字は49組中の組数を示す）

玩具	25	文房具	6	ベビーショップ	1
展示場	17	電気器具	2	食品売場	1
書籍	13	服飾売場	2	屋上	26
エレベーター	5				

玩具売場の興味

	眺める	いじる	眺める	いじる
電気機	14	25	写真器具	6 9
自動車	1	10	こま	4 3
ゼンマイ動物	2	9	野球具運動具	1 3
電楽器	7	7	花火	1 1
ゲーム	7	8	人形	7 1
ビニール風船	7	1	きせかえ	2 1
海浜用具	1	1	首飾腰下げ	2 0
工作玩具	2	4	ぬりえ	1 1
ピストル鉄砲	2	6	ままご	0 2

女の子

屋上の興味

	眺める	いじる
動物をみる	20	
ブランコすべり台	6	金魚すくい
馬ののり	1	金魚すくい見物
動物をいたずら	3	ベンチにねころぶ

買物をしたもの

	計	10名
金魚すくい	3	金魚のえさ
飛行機材料	1	牛乳
ジュース	1	藻
ソフトクリーム	1	遊具

金額	50円	2	40円	1	30円	2	10円	5	5円	1
----	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	----	---

戦に囲まれて、子供は自然注意散漫になる習慣がつくであろう。

家で何か安いものを買ってもらっても満足しないで、喜びもしないというようなこと、デパートの高価なものを見つけているせい

もあろう。子供の物質観にも何か影響を及ぼしているであろう。

デパート以外には、子供の集まる遊び場は殆どない。大通りは人間が多いので勿論遊ぶことが出来ず、露路も両側が小さな料理店に

的遊び場のある所の子供達は、思う存分友達と一層明瞭になる。住宅地の比較

見られない。遊ぶともなく遊ばぬともなく、

なっているような所が多く、そういう所では子供が遊んでいても、直に追い払われてしまう。従って子供の遊び得る露路も限られている。しかし、家の中で遊ぶと商売や仕事の邪魔になるので、家の外で遊ぶ子供は住宅地の場合より多い位である。（第七表参照）

此の地域の家の外での遊びの極立った特徴は、まとまった遊びの少ないこと、一つの遊びの持続時間の短かいこと、ぼんやりしたりブラブラ歩きまわったりというような行動の多いこと、店の小僧さん等との交渉の多いことなどである。（第八表参照）この傾向は住宅地の子供の遊びと比較して見ると一層明瞭になる。住宅地の比較

第7表 家の中で遊ぶ子供と家の外で遊ぶ子供の比較

		お茶の水 4才	附幼 5才	日本橋 4才	橋 5才
午前	家の中	287	280	88	136
	家の外	79 (28)	179 (64)	53 (60)	138 (101)
午後	家の中	139	204	64	118
	家の外	222 (160)	247 (121)	80 (125)	155 (131)
夜	家の中	293	246	88	160
	家の外	12 (4)	16 (7)	6 (7)	22 (14)

夏休の五日間の調査より。

( ) 内は、家の中を 100 としたときの家の外の比率

あちこちぶらぶらして、今これをやっていたかと思うと次の瞬間には向うで他の友達と話をしているというような調子である。しかも此のような状態が夜までつづく。多くの家庭で最も店の忙しいのが、夕方の五時以後であり、その時間になると子供達は外で過さざるを得なくなる。子供達が自分達だけの生活を持つことが出来ないということ、思いきって遊びに没頭することが許されない環境、そし

第8表 都心地区と住宅地区の子供の街頭における遊びの調査

	住宅地			日本橋		
	A	B	C	A	B	C
はっきり目的をもってまとまった遊び	19	329分	44%	13	157分	15%
ややまとまった遊び	21	154分	21%	58	466分	45%
目的を持たないブラブラ行動	10	75分	10%	36	177分	17%
会話を主体とする行動	11	79分	10%	13	99分	9%
何かを見物したり眺めたり	14	89分	12%	18	97分	9%
その他	8	42分	5%	9	35分	4%
計	83	743分		147	1,031分	

表の説明 住宅地、日本橋各地域において、晴天の日の午後、予め定めておいた範囲の地域で七名の観察者が記録を行なった。調査の対象児は小学校低学年以下の幼児童で、一人の子供について約30分間の観察を行なった。調査された人数は、日本橋、男21名女13名、住宅地、男27名女8名である。日本橋は、日本橋通、江戸橋、八重洲各一二三丁目、住宅地区としては、四谷三丁目と四丁目の一部、左門町、大京町、信濃町の一部である。

記録は行動の単位に分けられ、各単位の特徴づけを行なった。表中Aが行動の該当単位数を示す。Bは各項の単位の分数の和である。Cは当該項の分数の全体に占める割合である。

表中、はっきり目的をもってまとまった遊びとは、ままごと、ごっこ遊び組織立ったなわとび、戦争ごっこ、野球等である。ややまとまった遊びとは土いぢり、本をみる、三輪車のり、すべり台等の遊びである。

組織立ってまとまった遊びは、都心地区に著しく少ない。

## 第9表 都心の子供の特性と保育上の対策

### 特 性

落着がない、注意散漫、目移りがする、忍耐力がない。製作なども永続きせず、一区切りつくとやめてしまつて、それ以上に自分の興味を追つてやりとげることがない。友達同志でごっこ遊びを展開させることが少ない。

たえず刺戟にさらされているので、一寸した物音などにも敏感で、目ざとい。一寸した人声や音楽などにも気を奪われ安い。仕事をしていても、自分の外のこと気がなつて、仕事に身が入らない。

獨創性・想像性がなく、現実的である。先生に云われたことはやるが、それ以外のことをやらない、日常のことにはよく気が付き、先生の必要なものなどは察してもつてくる。先生の顔色をみるが、自分から思い切つたことをやらない。

活動し得る空間が狭い所が多いので、精力があまっている。幼稚園に来ると先ず学校中を一度走りまわる子供が沢山いる。

### 対 策

まとまつた遊びを促進させるようあらゆる手段をつくす、——子供の側から自発的に出てきたごっこ遊びなどはつとめて尊重し、持続するように工夫し、刺戟を与える。子供の興味を誘うようなテーマの下に、製作リズム、ごっこ遊びなどを仕組んだ保育を心がける。やりかけた仕事は最後までやり遂げるように励ます。熱中して仕事をしている時には、全体の計画があつても、出来るだけ仕事をやり終えるまで待つてやる。一日の日課の中に静かな時間をもつて、皆が一緒に静かにする。静かな音楽、などを聴いて静かにする時間を持つ。

ごっこ遊びを促進させる。つとめて、此の地域以外の生活経験をを持たせる。

(園外保育)

子供に身体的に活動の機会を与える。校庭に出た時には思う存分かけまわらしつてやる。

特殊な地域条件をカリキュラムの中にとりいれて、地域社会を利用することを心がける。交通頻繁であるから、交通道徳を学ぶために、又、交通に関する経験を活用するために、交通遊びの単元を持つ。

店員が豊富だから、お店ごっこによって商品の認識を深める。

てそれが子供の園外の生活の非常に多くの部分を占めているので、此の地域の子供が落着きがないと云われるようになるのも無理からぬことであろう。

### 三、保育上の問題

上に見て来たように、繁華街の子供は落着きがなくなるような条件、生活的地盤をいろいろ備えている。それは単に保育室の中だけで落着きがないというのではなくて、彼らの生活全体にまともりがない所から来ている。そして又単に組の中の一人や二人の子供の問題ではなくて、全般に共通の傾向である。これらの子供の生活を調整し、放置しておいては得られない生活態度を養ふことが保育室の問題である。(第九表参照)

これは昭和二十九年秋、文部省主催で行なわれた東日本幼稚園研究協議会の第四班「社会環境と生活指導」の実習校として中央区立城東幼稚園において行なわれた研究である。